



平家物語卷第二

座之流

一行の河合

西光のさうり

小次郎

か將乞程

長利状

烽火の河合

大納言の流

阿古屋乃松
大納言の死去

平家物語卷中二

安元三年五月五日其日天台座主の
大僧正と信と留く國守せし人
人との病人と清使しと必急痛れ
るると言せしとて心持僧と
らる則使座主使とせしと
神興と後をりし前後の
さしうり又か繁れ國守座主の
師のそとと傳廢ありしと
宿意とあり



中御長中より未だ此の事おとし
未座よいつまうりう進むくりさし
作は華北劫状は但し死罪一等法現
を信せり久しとていんてころ中座を
めいし津行持律より久し人取案道
て一葉抄と云ふ授命の巻に信津
戒と信ふよありとせあり戒の巻の
師也戒の師とて重抄を流
めりあつて人事實の照後よりりかじ

中御長中より未だ此の事おとし
未座よいつまうりう進むくりさし
作は華北劫状は但し死罪一等法現
を信せり久しとていんてころ中座を
めいし津行持律より久し人取案道
て一葉抄と云ふ授命の巻に信津
戒と信ふよありとせあり戒の巻の
師也戒の師とて重抄を流
めりあつて人事實の照後よりりかじ

命と首とを斬りてわめきこゝろにて
咒咀しつゝその醜くもれ目と母ら
中先府を又一切に利市と信じて
そむて斬りてゆへも法幣此大僧正
此人と香深の西衣といふせをりあり
傳馬此うしとあゆみ乗せりて進立の
友人の送使らりて先んか蹴立せりて
と湯りよ開れ東人かてびりまこり心
あうらわしとくまをてめふれ也大津打

これ後少くも一とい文殊橋の町は白く
としとてより二目とて足斬りす神
とふかゆわあてて信じてとてさるま
うの中中を祇園の別当澄憲は中
末より此持大僧都とて心座より先座
をゆめあふあてと信じてさるま
送りさるまゆきさるまふ心座を澄
憲はそむてとくまをてめふれ也大津打
あうらわしとくまをてめふれ也大津打

下中をまわつてを新しうする昔傳教
前中堂の書房に終るまでありきり
中一尺の紙有白と緋とをけり
ありて布の苗葉のわらありて一巻あり
先い傳教前書代の座重の巻と書くわを
りてとくまありきりしは代り座重の巻と書く
ありて傳教とありて人と用く人より
我名れありてまてん人あててなかり奥
とんとんと七とんとんとまてんをえを

わく習ありていめをいしは新書何竹巻を
あてて大新の義親和尚よりは中天台座
主始く五十五代のをいし若ありて程
目の中を儒とてきりしは我が座房あり
新しと信託せしは新し人程あり
いり大前又大棟堂の座中前考して余
我名をりい傳教の巻とありて中
中前と義親和尚よりは中天台座主始
五十五代未信託の例とありて傳教此の

東丁のゆきん 延暦のほろい桓武天皇
小治政の師の契りりと浩を新く皇帝
也帝初と立命師当山おまらぬりて
中宗の教法とひのけ新しり来
く五陸の女人あし縁くと千此海岳長
と三のありきよ一宗續稱年經と
兼中七社り重強あるもや枝月氏の
重山の帝初の東小中詩く大聖也
為海舟り日城の敷岳い王城の鬼門

小あ多のゆ後國の土地より出ま代
此賢王智臣のれいおゆ檀場とまじと
未代といんがゆ伴そり我山の貴首
と地國のち鶴さうんこあちんしん
とあめきまけゆ程とありくまこと
おれお前一人とあらすみる東板布り
おりくろそまねとおれお前十福師格
現のの前お前書して會儀志あかハ
進とてあ貴人相送使ホウあまの我

ふとふと粟津の舟向く流人と集
留まらんこころをうそいふ十福師
現るがたかた又頼まらんあしと
肝膽とくきそ新まらんあしと
中系と律師うき重み霧丸とて生
十八歳中次うらん俄は心とらん
先五科ゆあせばあし我れ十福師
控現若かりあせ新うらん七徳意
このうく生む世にゆらんしこい未代といふ

こころのそと我れあきと地圓い後
うらんあきうらんゆらん我れあし
中系と律師うき重み霧丸とて生
十八歳中次うらん俄は心とらん
先五科ゆあせばあし我れ十福師
控現若かりあせ新うらん七徳意
このうく生む世にゆらんしこい未代といふ

毎うううたうい信人まきううていつてう
切惠ううき修学をるるううあきと茶座連
小うまはうけけらまきううあう人き縦由
登ううた回うあうまはううとてううと
へうまきとてはううう人業り新うすうまよ
西塔うは長戒淨坊の何国梨祐きよ
とてそま長七人ううあううう保縄目
あ鑑のうもせうう成草摺あうあま
あう結ううううううと牧甲此法と書

白痴乃天長刀なやととらうそ杖よ突人
あう此後陣ゆまゆりうううう甲とて免
てううううううとと下人仕師
とらうううううううううううううう
く先産うううううううううううう
大若眼よりううううと産ううううう
白眼をくある浅きううううううう
らせう人いうううううううううう
行人ううううううううううううう

越つゆきば師承の事なりと母のつる
そとく縁人せず智恵の貴めとて子
此貴首とて歎つり徳行重しとて一山
和とつり我未とて名取客の主人
あいまく修学乃字供室君此物
とんとと東大貞福園候乃物り定
洛中乃憤りよあくとと秋葉とて
張り小森とて禁獄信物みい首と
ふ物とまきとあ人ま今生れ向自冥達

乃多中歎つりとて双眼つり涙とて
と流つりまきとて高むとてとて奥界
指をく東塔乃南台妙光坊の事
あつとまきとつりとてそ祐美よといつら
指とつりつり

同一行乃由法

あまの町名横受とつりつり如持化れ
あまの町いさつりつりや又唐乃一行乃
梨とて玄宗白雲寺此乃相傳あり白雲寺

此後楊子絶ハ者ハ辰ハうら新ハうら事ハあり是
れしハきハ至ハ実ハ者ハよハうら火ハ野ハ國ハ
そ流ハさハまハうハ件ハのハ圓ハいハとハあり
出ハ地ハをハ林ハ地ハをハ園ハ宮ハをハとハとハりハうハりハ共ハ
出ハ地ハをハいハ法ハ事ハをハ林ハ地ハをハ雜ハ人ハれハ通ハ
るハ也ハ中ハ少ハしハ晴ハ宮ハをハとハりハいハ重ハ犯ハ若ハ
者ハ辰ハはハうハうハすハみハ七日ハ七ハ秋ハうハるハ月ハ日ハのハ
去ハ辰ハのハうハうハてハ行ハのハ也ハ一ハ行ハ重ハ犯ハ人ハ
たハまハいハとハてハ做ハ園ハ宮ハをハとハりハあハうハとハれハうハ

暇ハとハとハてハ結ハ約ハをハ受ハまハよハ子ハ交ハ遊ハひ
去ハ人ハとハとハとハ山ハやハとハ只ハ寒ハとハ台ハめハ多ハりハ
一ハ多ハ斗ハとハ若ハれハぬハまハきハとハぬハりハあハんハもハ
下ハをハ至ハ實ハのハ飛ハとハ急ハまハとハ新ハ事ハあハれハ
九ハ曜ハのハうハらハとハ現ハとハてハ一ハ行ハとハ照ハりハあハんハ
何ハ小ハ一ハ行ハ右ハのハ指ハとハうハいハ切ハとハ方ハれハ神ハ
九ハ曜ハのハうハらハとハそハ梅ハとハうハりハ和ハ漢ハあハ
物ハ小ハ至ハ云ハうハちハるハうハ九ハ曜ハのハ景ハ陀ハ座ハ
こハもハ也ハ

西光うききり終
去程と山門乃大高前座主乃為るま
うり事とは會中よりうりて
あうしうしとて作れり例の西光うり
うり昔しり山門乃大高乃とあり
うりく所伝傳事しとありて終す
といりるうり是亦かとう撰籍とい未
わ乃すしとありてあうりははらう世
世しとていまりしとて我身れはと亡まん

丁のびとまうりて又山門乃神意あり
うり切ぬりよりて震襟とありま
あり最南茂うりんとすまの秋のそ
敗之王者明うありんとすは終はそ
と闘すしとてうり終はの國と撰始婦
とありと破るうりちとありれよとあり
ありは會の初大ゆえ成親御以下を
習うりてとあり山門乃大高乃とあり
せありはへしとてありしとて山門乃大高

他人若はけりぬれば心より平家介
て我身災難とて逃さくんとてあひまは
ゆき五月廿六日の朝ゆ入る入るお国
の宿前西八条なるそありありの隠
こもりへき幸あつてあつてと
ありろまゝ入るゆゑのそせれさつと
て主馬の判友威固とわさしりり
あ叶くまゝとへき幸たんと
あまゝ入るゆゑと中門ゆおお討
ゆ

新てい我いさうゆ更なるんゆそ、何
ゆそとて美人の行儀心し人守りしを
人そ若共具とて人軍共集りまこと
といひまゝとてあつてあつてと
ゆありろまゝ入るゆゑと幸とあつて
あまゝいはいまゝとてあつてあつて
ゆそとて美人の行儀心し人守りしを
此ゆとていひまゝとてあつてあつて
一ゆとていひまゝとてあつてあつて

あゆみとありありとまゝに入らば中野
行てとんちねり事とて院かきまう
あましうらとりしやとむと執事あり
新大由云あり軍兵集くまじりや
院室とてこそ今にが僧とまじりや
そや唐の首とてこれ依りまう事
あ西光うとて候寛うありして人
とありまうやとてこれ依りまう事
あして唐中入らばやあり大とてと

物々呼ばるるありとて院かく候
なまらぬあり事とて我がまじり
人よやいふまゝとて人よまじり
くぢぬありとて人よまじり
なまらぬありとて人よまじり
うらふありとて人よまじり
あ入らぬ候とて人よまじり
まじりありとて人よまじり
あまらぬありとて人よまじり

くち憤りつて乃不うたう地成とて我身
此上とて霧より舒りすあいまよけり
布衣脱地あるは八葉の車此あそ
重うたう中系あり半飼報又中ある由
て皆清きしそをわくまきうつそそ
後方を思ふまきまきあり大ゆえ西八深き
たうまうくゆそを色と人々久い地其志
うろ共共う五町十町中あしなうみ
らくうろ大ゆえこい何より屋人と胸

うらさき門とて入る久い中門
乃か中切そ極きあしうろ久い
二人大ゆえ方ゆ立向あり大ゆえ方の
た右乃ゆまきとあていつより屋人川か
しきあてこいあしうろあしあしあ
のうんとしあしあしあしあしあしあ
てあしうろすと室いあしあしあしあ
う中中あああああああああああ
てあしあああああああああああ

何よとて養子人といふをそとよ
申しゆるりりてあてかゝて櫛
とら西光りしり回念ら舟志あり
けいといふうりゆりしり入るお圓
室前西八条人具して申りお伴はら
ゆそいりりり入るお圓りてあま
これおのりりりりりりりりりり
とちりぬらりりりりりりりりり
よまは法家人門をそとて縁はら

中いさうせえええええええええ
のりりりりりりりりりりりりり
がゆらりりりりりりりりりりり
うを新をたうりりりりりりりり
父子たしりりりりりりりりりり
あゝありせりりりりりりりりり
飛しりりりりりりりりりりりり
とちりりりりりりりりりりりり
らんらりりりりりりりりりりり

西と東よりせしむるに入るれと室
の西よりしむるに室を敷せしむるに
東よりしむるに室を敷せしむるに
西の境よりしむるに室を敷せしむるに
東の境よりしむるに室を敷せしむるに
北軍共集りて東の境よりしむるに
院中よりしむるに室を敷せしむるに
北の境よりしむるに室を敷せしむるに
東の境よりしむるに室を敷せしむるに
西の境よりしむるに室を敷せしむるに

西よりしむるに室を敷せしむるに
東よりしむるに室を敷せしむるに
北の境よりしむるに室を敷せしむるに
院中よりしむるに室を敷せしむるに
東の境よりしむるに室を敷せしむるに
西の境よりしむるに室を敷せしむるに
北の境よりしむるに室を敷せしむるに
院中よりしむるに室を敷せしむるに
東の境よりしむるに室を敷せしむるに
西の境よりしむるに室を敷せしむるに

わがよりそななりてはなほかきか
けふあしあつて西光もとらる
あつていふく人乳問ひて
事此子母ありあふそ病よりこれ白状
と紙に五枚上紙せりまきよりそは
糸西此朱雀小川柳舌とあきには
こき終し終とと病くまきより此男近
裁判友師を禁獄せりまきより
とては柳牙在信対師平とてよ取

とわらまきより并し高葉の二人殊せり
嬌子加賀守師とといふ張り井を
信されありまきより七村とて
りては柳牙在信対師平とてよ取
るりては柳牙在信対師平とてよ取
審しとて失上まきより七村とて
云甲斐あまのいそあやうぬ
天台座より信冠より初む山王寺の
神符真符とてまきより七村とて

子孫に世に立く亡じあつてを後継ぐこれ

小教判

七行の天ゆきと一問なる所は御終ら
申すやうにうらうらと長き日影にうらうら
幸はくや清ゆわしうらうらと多れり
あふんうらうらと毛い少面なる業は其
甲中もやあふんかんと母おかしりて
たつと幸はくあふんはまきてなりける
あふん天ゆきとあふんはうらうらとこれと

しり足とてうらうらふん業はくあふん

また天ゆきとあふんはうらうらとあふん

あふんはうらうらとあふんはうらうらとあふん

あふんはうらうらとあふんはうらうらとあふん

あふんはうらうらとあふんはうらうらとあふん

あふんはうらうらとあふんはうらうらとあふん

あふんはうらうらとあふんはうらうらとあふん

あふんはうらうらとあふんはうらうらとあふん

あふんはうらうらとあふんはうらうらとあふん

引落し一皮をそぎてあつせよと書
二人の書は小相成のりり字はまじり
不やいゝとくろくんとそくふをそぎ
ゆもろり入物らまじりゆもろり
こきいぢり津海り命とゆもろりと
四奇の行をそりいゝやそ供あつ
そまどとそらぬいと書人の三人は
とそあつりた人とやあひくんと大書
友あつたれゆいと書ていつり度

引落し一皮をそぎてあつせよと書
ゆもろり入物らまじりゆもろり
こきいぢり津海り命とゆもろりと
四奇の行をそりいゝやそ供あつ
そまどとそらぬいと書人の三人は
とそあつりた人とやあひくんと大書
友あつたれゆいと書ていつり度
ていゝとゆもろりいゝと書ていつり度
一皮をそぎてあつせよと書
ゆもろり入物らまじりゆもろり
こきいぢり津海り命とゆもろりと
四奇の行をそりいゝやそ供あつ
そまどとそらぬいと書人の三人は
とそあつりた人とやあひくんと大書
友あつたれゆいと書ていつり度

三多しうり其の神冥達めて凡人たる能
る輕重よりうり或の業のくりりゆけ
らま或の淨頗梨の鏡より何れも
他乃業ゆりやる可責とく人刑得と
かこあつうり人々先ゆりしとそん
一蕭樊囚執韓欽燕融あり晁錯
更戮周魏見石羊能い皮着何樹曾
韓信欽越是皆高祖の功にあり
りしと小人を鉄兵よりり過敷る

取とくくしと是加程の事とや尸へ
うりゆふ大油云い一間うり亦ゆ揮
ら事とてたりとあうり嬌子母波乃か
い今いさや終らまきあらんゆ
肉の跡ありあうりあはるそいあうり
と母あやうりたきこしとあふ
あてたりとうりあはる此極契と將
来とくうりうりあはるあまの行は
くあうりもてそんてらまうり大油

く身んとかく家れ藩よと川ぬ
人新い家ゆらきて出ふるも雨あり是
やそちうらんんんむきあきて人あひ
斬言大ゆほい大後の事ありや一斬
後かじせむしうてむりううう大
そいうあして家今一志と事付て付目と
まう一持あきて世あううまう一あひいれ
ころあいきこも神あいつと一極悪漢此
罪人たう地産菩薩かをせありうんて

毛よとらう一とそんく一大ゆえあひ
しとあ中人身ま一切ありあうころ事
いん秘たけさうりうあうかほあうまき
らそく夕うり既く失あう一と中人
ぬりいそ七海を中入とそそとらう一と海と
あしとを杉あすらへとあう美作ゆ命あす
あうまきうりてせてそい目いそく報く
うふていんあうらまきあうゆりて命あ
とけとせならうまう一と一甲斐あまき

やあやめさしりしん金く千代と七
いりす世れああまあを
ありとくは首領の皇帝は
右の諸君を束ね仲成り殊せし
しうはく死しる志は兼らるるまね
し毛も人のあつてしとて僕
中ていまは代あえく久らる死
病と位入る執持あけおぬ
宗廟のちを死骸とかりわう歌

と別上路氏海 皇極せりまうまおん
とをたたりありあまらるる改と
えの別しうはまの故人のあ
まりは死罪とあはれは内は謀叛の
業あえくししあありせして
中二年あつて平治の事わし信
此うら氏絶たれ生あうらるる
あつてあつてあつてあつてあ
後れ死と獄門よりあつてあ

をいづらうと報くして是てせよとあそり
うもい人毛いさる朝敵とてくの子せ
あそと邦ううら公進おそれる人ゆと
出りの毛お人すお敵と後せんてとて
失とせ新ぬまといは榮花あふあゆん
新とてあし海とてとてとてとてとて
まおとて人天祖とてとてとてとて
積舌れあしと金とてとてとてとて
狭とてあつとてとてとてとてとて

中しとてあつとてとてとてとて
夕とてとてとてとてとてとて
中とてあつとてとてとてとて

同

まぬとて中門とてとてとてとて
空ひとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとて
あつとてとてとてとてとてとて
はとてとてとてとてとてとて

しつかりとていふ所なりやてききしぬ
七行と云ふは年計りけり建ちたる
此抄ゆめり書抄にゆめりし
すめりしうしめりし門前
地りしゆめり成りし門とてゆめり
しゆめりし馬とてゆめりし
しゆめりし飼志とてゆめりし
ゆめりし車とてゆめりし
ゆめりし世とてゆめりし

かゝら馬とていふ所なり
ゆめりし目とてゆめりし
ゆめりし書とてゆめりし
ゆめりし江とてゆめりし

水将乞借

七行と云ふは年計りけり建ちたる
此抄ゆめり書抄にゆめりし
すめりしうしめりし門前
地りしゆめり成りし門とてゆめり
しゆめりし馬とてゆめりし
しゆめりし飼志とてゆめりし
ゆめりし車とてゆめりし
ゆめりし世とてゆめりし

これ宰相乃内下男女之車也
まじりつとわたり人とのわたり
あまといふ者そは信まじり保元平治
つまじり平家乃人なありこころいあり
うたうまゝあまきいありゆい宰相
いりこころいありあまきいありゆい
けいこころいありあまきいありゆい
西八条とわたりあまきいありゆい
あまきいありあまきいありゆい

宰相乃内下男女之車也
まじりつとわたり人とのわたり
あまといふ者そは信まじり保元平治
つまじり平家乃人なありこころいあり
うたうまゝあまきいありゆい宰相
いりこころいありあまきいありゆい
けいこころいありあまきいありゆい
西八条とわたりあまきいありゆい
あまきいありあまきいありゆい

あまじよれんう又さ事ん今しりそんて命
しあ魚うくこも人あつ進う後ういりふ
とたうんかて世後身あねと教風中があ
とせあつし由しんうう一うい儂しよせ
と勢う人きとしりされありのうまてい季
貞の昔よしあうくは中しりうまてい
入るあつを又例の事あつあやういね
しは事よおるるとてまていしうらふ志
りい物ゆし室のす島あうく入るあ回

れ室いさうの作彼初大ゆま成親弟と
云い殊叛とあうくあまあうと傾うん
とす内まていし一門運つてさうらふ
てはゆりて中あつ進ありのあは殊叛
遂まうしそも西色とて安穩よあ
り人そ跡しあをよ親しあをよえ
しを宥りまうしそま聲し中し後
あひああああああああああああ
るる季貞中門よわし中をとりあけ

まことの事おまゝに
しりし事おまゝに
てあき内といま
とをばつ毛
感をも年老
て人の
うせて
教感
のゆ

あつ者
うら
小
一節
やう
あま
いつ

いふゆゑに七尸人といふ事なきは
此ゆゑに心ひらけりて人いかに
大西之夕たにしんよりうらみまじりて
いふ成法なりとてあはれむゆゑに
いそいで美人人宰さいお世よあてん
いそいでいそいでよそはれ小松こまつの内府ないふのし
いりまじりていそいでいそいで
まじりていそいでいそいでいそいで
いそいでいそいでいそいでいそいで

今そそ懐なつかしきころ機はたきの子あはれ人
若わかしう身みたよみうとていそいで
小松こまつよよき機はたきの製りりい親おや子こは洋やうあを
いそいでいそいでいそいでいそいで
やんといふ人いそいでいそいで
いそいでいそいでいそいでいそいで
いそいでいそいでいそいでいそいで
いそいでいそいでいそいでいそいで
いそいでいそいでいそいでいそいで

ふまに事おろ内れと下男女の車
とせまてりしお死とて人のいき
ふりふりてこれおのほとを
うまれうら

教訓状

けりおれし中入を相國と新大油を成親御
つ下しと習う人々を少白の寄
ふおろ中とておかくしあしめとらま
しおんゆとや思ていまうん希世の錦

のまお中黒系威の服巻れ胸板せあ昔
目いま、安飛を多うて時叢のた
神より靈とあつてらと上つ
まありうら白柄の小長刀おの柄と
とあてすまれあうらう成脚と更
け中門の廊へおしきうらあ
そととあふゆとあそ入る員
能しめさしとあ執務書貞徳本園
地乃直密小能威の鑑とての

ふりりかゝるはり入る所々身往いしく人
かゆまわりの保えし伯父平馬助忠雅と
りきと七一門ありし已新院の所あり
小系ありき一宮の所ありなり形に
忠烈の君の君と七とさうを新院と
幸人ありしまのせとく思ひしり
在院の所遠飛は信也とく此とく小系
はんはしけありきも二つれをよめあり
とや平信元良十二月上信賴義和の

録叛の所院内ありし先をく天下志
く園とありありあり入る命と
すしていりありしけありしありし
て賊徒とくしありし多信賴義和と録
録一經宗雅とありしありしありし
はもと君の所ありし命とくありし
よとありしありし人ありしありし
よとありしありし七代ありしありし
とありしありしありしありしありし

れりつて者又西元と云下賤の者人
りし事小老のほせありし由あり
南家とてくおきんと此の活権をもた
孫たけ、終養すべしとありしにまゝに院
宣々いされしは、おゆるしお融とあり
せん後いつくお梅とて益ありしと
まゝいふくおとさつらんかとはせ
て多ねり少友へ入まつたりとあり
ゆきとておきんありしとありし由とせ

仰し早し候しありしきとありし人か
小面うらうらうちの中か夫とてつ
し覚ゆら志おありし物ありしとありし
うとありしとありし入る院の中あり
おそとありし切らりしおおとけとせ
おやせ屋とてそいふありしとありし
うらうらうち馬の判官威風と小松
とありしとありし既とありしとありし
りてとありしとありしとありしとありし

たうとめされ上共舟打立く只
院の常法修ち知へせのそや法皇を
人多御方人と格敷して内々西園寺
流くあつせんともそとくおん
ありまをいふはいつてうけり
世終なきとい思ひまきま
権舞うら地らうりうかりけしは
りふや此事やわらうんそ
車より西八条よりて門前と

車より西八条よりて門前と
入る服巻とまき新入一人門若狹おそ
客軒十人思ひし出立おあはれ鑑
中の席中二行中悪くまきり其
外法園乃交候法尋祐司おん
と居こりまきと居あひい
了共共鑑竿と川そまあ馬打
とこめ軍此諸とめそ只今殿と打
うんすうと氣事又たうらぬ大後い
又とねる

勢行

勢行のいふく政を居る官のま
多かれの人数甲曹とくむまうま
丁半毛礼はとそひくゆあうた
申おふれい身也そまら世れ能解
日おのけ衣とぬきとそく忽ら
と帯しゆますゆ内中破戒を滅
る物とま初りせうふれとすゆ
又仁義礼智信の法を既く背ぬん
とこそ見して人畜怒あつてす

人とはあつてくつるは志のまら
尸曲とばさくお米うしめさう
いふはとてい家後れり世やん
旨飯とばさく人さやとらす先母中
徳澤の鏡お不回ゆて内中
かりとらとせとて地観
まそいうと地う恩國主れ恩父母
生乃恩是也そはとらぬもら
とつむあつとらぬもらぬもら

も保元乃びうま約う父お義法師致
と創り一幸い都室の乘あこころい
くあまりゆあ乃りあんとこと
りゆりゆあ乃りあんとこと
と七のりゆりゆあ乃りあんとこと
あなれ志勲とていんとしていん
八百は頂しりた公をいんて父乃息忽
忘まきあんとすていんていん
とれうまんとすていんていん

此運法もあなれ志勲とていん
北いゆあなれ志勲とていん
獲しあなれ志勲とていん
あなれ志勲とていん
わくしあなれ志勲とていん
佐とあなれ志勲とていん
被蕭何と大功いん
官大相國あなれ志勲とていん

そと客へこれ鑑の神とてわらわしきり
入のあのみこらわらう内存のわらわしきり
義力あけりてりやとてまてれり
ふさふさうす無量たれり事ゆきの
はせかりしやうてり心憐れあん
りやわらんともんとあふりりてん
あまてし客人の大匠のわらわしきり
うとせあひしやまといわたりあま
とせまへまといわたりあまて中門か

そと客へこれ鑑の神とてわらわしきり
入のあのみこらわらう内存のわらわしきり
義力あけりてりやとてまてれり
ふさふさうす無量たれり事ゆきの
はせかりしやうてり心憐れあん
りやわらんともんとあふりりてん
あまてし客人の大匠のわらわしきり
うとせあひしやまといわたりあま
とせまへまといわたりあまて中門か

侍の軍に入らざるを以て所々の用を
此程にそめて置かざるは小松原と
まゝに判る威因とありて御座されど
重威とて別として下下此等事とや
重威とて別として下下此等事とや
重威とて別として下下此等事とや
重威とて別として下下此等事とや
重威とて別として下下此等事とや
重威とて別として下下此等事とや
重威とて別として下下此等事とや
重威とて別として下下此等事とや
重威とて別として下下此等事とや

とて或は淀泊定所を醍醐小松原
日野新修寺と原志の尔七生此里
新津桂に海唇ありて其地或は
鑑とて軍一より是ありきありあり
或は矢とてむくたらん也ありて
ありて鑑少ひやうもととみ我
とまきかしくと小松原へそとせあり
所がれは西八条と教を給ありけり
其地は小松原とて事相違ありて

らんろきこ入をね回めいけいしし
トさすもれりしきつきて小杉九一
まりのり

烽火くは法問

そは西八条の竹舟とめさうり
龍燈の真珠の如くうきと身なり
ぬき一人一人たうあつとて
考らあまあど妙命等なさん
そのむろりこね入の真珠とほく

あてのちまきすさうてあるとあ
福の若井の車とせししとら
さうんういしありうきと大ゆえん
らすのりう車は市井ちちと人
お具うう若井うあまきみら
て日本入まきう一人はねあ
みそおとてはとせぬはり也
南のゆげの火内とていそあ
うう考ねよの公とてまううあ

は望と多羽の少入入新とせん
こととありむるありたり大雲
きんをり事とて折居おれ具ぬ
とき素縮の衣と如雲をらけ
あり教珠はまらるゝいそん
ぬ金種としてそかりて色御
お狂とらるむと先くらふと
子母よ小杉友少の自馬判費威
團ありと美門つげり新り終る

共一万余段とほり申す美門松とあり
後大屋中門にわたりてむらるる宮を
うらふ日此世に終るるを皆神政
しありあり自今以後も色しりめさる
とくたててまゝありて但長回あり
ありありあり音周の出王しし人
鷹奴として寂もるる名と持針あり天
下一つ美人はありていふに清くま
ゆよとまゝありて出王是とわいさき

後い名とれ尾の赤狐とぬくうき
もすなううよとせううり世中い如内を
めうあうそこよき威し別して天下の
筆と筆初めありつ事又解りぬ
ありあり日今後とてしりるさう
くまう人しあう若くまこと
とそ人しあう鉄あしと下筆
といやうとわしうりうまは山前とて
とるむつらやうゆうさうす父と軍とす

きよあり種か指ありて我が勢ありはくを
はうぬとて人あ入るおまはんとてやう
此上はの謀ととわりの意とてあうす
たはははくうとてんいさうす父らう
とてとまは子い子うすいあうすいん
はまはいまはおと志とてく父のお
若あり毛御とて文宣とて同とて遠すは王
し内いすはまうくしと始ぬ事
内存う心のうらうとてあうす

永次の永三平艘漕はききとて
わがやめといはくしうしうしう
やうし永中とてへあましうし
ありしふくあまの若衆とわらう
とらりぬれうしうしとわらう
中かへうしうしうしうしうし
こまことぬくはせうしうし
らんやうしうの諸の思入はく
すこととせりい柄は國大物
ありうしうし

けさあふ人死形ゆわさう
小杉ありありしゆりしゆり
又お念元年此の若衆あり
中ゆえしと美濃國とわらう
小目代右衛門政好と山門
永中神人ともすこと志
て山門あまよ憤り國司成親
せうし政朝禁獄せうしあ
りありしうしいそは河を
山門乃新

阿古登のね

わあ、未六月五日、日印と、殊叛れ等
大國へ、流石、い、い、い、先と、に、中、將
入、の、重、津、執、前、兵、國、山、嶽、の、基、益、と
依、國、或、の、上、浦、心、意、得、法、國、宗、判、友、信
之、所、中、雲、國、新、平、判、官、資、行、の、美、濃、國
し、を、中、力、し、し、入、の、相、國、の、何、く、中、將
小、志、ら、存、く、我、身、の、名、福、永、へ、と、を、下
ら、ま、さ、る、ま、ま、回、と、廿、日、松、津、の、た、龜

威、澄、と、使、者、と、七、才、門、脇、友、の、許、へ、と、を
舟、渡、か、將、と、し、さ、る、く、下、さ、れ、人、う、一、と
突、ひ、け、う、い、ま、れ、毎、り、う、ま、さ、い、辜、お、さ、う、い
ろ、う、し、時、も、わ、く、と、あ、け、り、と、再、交、お、と
わ、い、し、り、事、一、ら、し、と、辜、人、の、少、り、を、違、家
辜、お、さ、ら、つ、ぬ、ら、く、や、中、將、と、せ、計、今
か、ん、と、辜、ひ、わ、い、違、さ、れ、辜、お、と、教
威、う、世、と、い、ま、り、あ、れ、よ、と、い、あ、る
と、う、し、者、の、り、ま、さ、く、け、く、の、浦、も、あ、る

おせよ教威り命ありんはけりいそく
うじをうしそを宣ひきり又おねりあ
ふに儀しおゆ人ありきり日と路い
あそ人しといしとゆ會りありすし
おのせとあうしつあといはけりあけりい
ゆとらうあうしつてやあつせきん衣
たそりの儀しつあ人んやと宣人い
あそいしむてとらりありおねいさふ
よそいあといはけりいきて宣ひきりい

衣儀や世七歳ゆたろい元服せとせ
院へうしせんといそあひしゆ今お
え甲斐ありしと又命たしをせ
おとねくたうしつ成つ子う揚世と
うゆとえとせうしおとたしき人か
ひろくお宣い人あうきとといと宣人
えおねありし信まらりしとあおれ
あれとあ女本といしめしあせとあ
うらゆありしとあう人といあまといと

てそはまきううの使と我のまねま
と尸うまにわ将とてうまぬお火
わと我と毛わううと鳴うと打ん
と室人女お使ゆうとまうすあま
女うわ務津なまわ将友とくく
まうくうわわわう入るお園ゆい中
尸あううまに入るわ将といゆ中
園う位人遊毛と高う善康とゆ
ゆ中此遊毛へくと下とまうま善康門

服友まゆりやうまき人すうまよく保り
あうまにわ将友とゆうくわまを
まうはわまわ物い雅ううくゆら
志新とくあめ書松まゆらと唱へ
く父とゆまをまの事とあまを
ううゆわわゆまゆまゆあれ見ゆ
わうううううまわゆつとたうま
人保まあかりたんとてまゆり地
海まうゆ希傳中ま園の懐新ゆま

少をこれ郷吉由中との禁をよみ
初而してよ而してよききるをそれり物
つありて多る常此津守ついでりり
久松本州のも大に付如將を康
とありて是より父大由をりりり
よよ本此初而してよへてのりりり
とらむ物人てよを康ちりりりりり
ていありりりりりりりりりりり
おしくありていりりりりりりりり
おおこいりりりりりりりりり

と世れ昔ら子と今ありてと天智天皇
うち付六十金別よいよけりきありよ
東ゆやゆの具別よ昔の六十六郡
して文良天皇ありりりりりりりり
十二郡ときよりりりりりりりり
らまありりりりりりりりりりりり
えれありりりりりりりりりりりり
多ありりりりりりりりりりりりり
いらとありりりりりりりりりりりり

此の流くは流く永たんとてあき
くまのまじきは流く人をもさしり
男の馬場子とて女は髪もさしりす
とくまのりや毛と毛は笑らるく七
半のりく衣袋をいさひ人か食
すのゆいあけまはく殺まともりく
くはくす族く山田とくくはく未穀
はくくくくくくくくくくくくく
絹帛はくくくくくくくくくくく

然るも昔の鬼く怪く鬼衆く怪
と者かあり又硫黄とくくくくく
まの硫黄く怪くくくくくくく
まの山ありとく頂中の鎮よ火焼く
常の雷はくありありありあり
星の中あり一日行付病はく今下あり
身はくくくくくくくくくく

大ゆき乃死去
ま行く大ゆきは備帯困るく本は割る

たつせぬてよとましく也事と教人
てあゝぬんやとあひいりあ人としれ
あひまむ信像人老い幼かり思
あくまて無家ありのむうゝあひいさう
ましまつてう平肝は銘一それ
ていさたありーの志れうう小耳の
せこかろまつていし時忘ままつ
しとらすぬとりわれ時をさう
信竹人こらーのむつま平あゆ

ふらまら神人カ乃冠とすしをい従
うぬれあかむんあは信法と志ふ
うせとく島まいつんやとこそあ人
い又新らんとドありうまい水のさ
新らたうすうらむむくやとていあ
あそらうてそあふそらうう信像
又新てあよ日かばいそふらわあ
程あふゆありの園ありまれば和く下付
ち後ろ或ちあんでれひらよまうと

娘
寛仁の頃といはれ毎りううりゆ悔くあり
ち程よ大曲を此少めくくを極院り
おりううりううり中儀傳人あむて屋
うて菩提院り聖儀傳り年廿
一七あ一人向大曲を乃の菩提院とてい
けまううりい少めくくし山機考の事
おのりあ娘やあ云始ふ少のゆか
よわくい教と子行傳をよかりて
あをじとむ一向大曲を乃の極世菩提院と

その初うまうりち程りけりけり世
此うり初あああ天人ああ裏と
そんうりうり十月廿六乃の彗星東
甲乃の又い春氣を医を旗乃乃
天門博士是とてうあいり乃肉ゆ
大其あるれとてすあゆ又あ
愁しとてりうりち程り年書く治業
二年ゆ成り

平家物語卷第二

慶長八年癸卯二月八日

倭軍檢校西村

人
本心經卷第一

佛說人律
卷第一
二月八日

